

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ

## マイノリティを楽しむ ~クレア勤務から10年が経過して~



宮城県経済商工観光部国際企画課 主幹(班長) 日野 貴広

ニューヨーク事務所から帰任したのが2007年3月、早いもので10年以上経過してしまいました。クレアに派遣されたのが入庁4年目だったこともあり、クレアでの経験は私の生き方・働き方に大きく影響していると感じています。

特にニューヨーク事務所では、全米知事会(NGA)や全米シティマネージャー協会(ICMA)、全米カウンティ協会(NACo)の年次総会への参加、宮城県と姉妹州であるデラウェア州政府やNACoでのインターン、ニューヨーク市議会へのインタビュー、コネチカット州でのタウンミーティング視察、ニューヨークタイムズトラベルショーへの参加、ウェストチェスターの大学での聴講、先進自治体への調査出張など、本当に多くの学びを得た充実した2年間でした。

今回、このような貴重な機会をいただきましたので、記憶をたどりながら、クレア経験を通して得たものについて改めて考えてみました。英語力や段取り力などのほかに、自分に根付いている感覚があることに気づきます。

### ■ なんとかする

米国で仕事をしていると、予定とは異なる事態が発生する、または予定通りに事が進まない、なんてことは日常茶飯事。柔軟に対応することは当然のこととして、多くのトラブルを経験して学んだことは「なんとかすること」。粘り強いネゴシエーションで難局を打開した経験は、今の自分の支えになっています。

### ■ マイノリティとして暮らす

ニューヨークで暮らす。このことには、英語で暮らすこと、多文化で暮らすこと、大都市の光と影の中で暮らすこと、たくさんの意味がありますが、今の自分に一番影響していると感じるのは、マイノリティとして暮らしたこと。善し悪しではなく、事実として。マイノリティとして暮らすことは、不便なこと、苦勞することもあり

ましたが、そればかりでもない、という感覚。ありのままを受け入れる感覚。自分のアイデンティティのひとつになっているように思います。

現在は、県の欧米豪担当として幅広く活動しています。県庁では海外からの賓客の対応やSNSを活用した英語による情報発信、海外メディアなどを招請してのFAMトリップなどを実施する一方で、デラウェア州では姉妹

提携20周年を祝い、ニューヨークやロサンゼルスでは県産品の販路開拓を支援し、シカゴやドイツでは東日本大震災からの復興が進む宮城の姿を伝え、投資環境をPRします。前例がないことも多く試行錯誤の日々ですが、そんな状況を比較的楽しめているのは、クレア勤務の賜物です。

自治体職員としてはやや異端の感は否めませんが、マイノリティ経験を生かし、これからも楽しくチャレンジし続けたいと思います。



クレア勤務時に設立に携わったニューヨーク宮城県人会のみなさんと



ドイツ対日投資セミナーにて

### プロフィール

- 現職：  
宮城県経済商工観光部国際企画課 主幹(班長)
- 業務内容：  
姉妹交流、翻訳・通訳、JETプログラム、海外からの賓客対応、海外販路開拓支援、外資系企業誘致、インバウンド(すべて欧米豪地域担当)
- クレア時代の所属：  
2004年4月~2005年3月 クレア東京本部調査部連絡調整課 主査  
2005年4月~2007年3月 ニューヨーク事務所 所長補佐